

【様式1】 平成28年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	養老町	学校名	大垣養老高等学校			
校長名	渡邊 千洋	対象学年	1～3年生	人数	(食品科学科) 120 人	
活動名	専門教育を生かした 地方創生の取り組み		時間数	計350 時間	継続年数	5 年
題材	① 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） [] ② 歴史（出来事・史跡・先人・その他） [養老改元1300年祭] ③ 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他） [] ④ 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） [地元特産物] ⑤ 地域との積極的な関わりをつくる活動等 [養老鉄道、養老公園] ⑥ その他（ ） []					
複数年継続 するための 工夫改善	課題研究のテーマとして、学科全体で継続して地域課題の発見と解決に取り組んでおり、学校所在地である養老町を中心に多くの研究テーマを設定している。研究活動の課題達成意識と意欲が高く、完成度を求め継続に繋がっている。					
<p>1 ねらい 課題研究で地域と連携した身近なテーマに取り組み、生徒の学習活動の確認と、地域の一員として当事者意識を喚起し、社会で主体的に生きる力を養うことを目標とした。また、地産地消の特産品開発や地域活性化に関わる研究を通して、地方創生につなげることをねらいとした。</p> <p>2 活動の概要 (1) 地元産「ハツシモ」の米粉を使ったパンを開発し、池田町の学校給食メニューとして提供した。 (2) 養老鉄道の活性化のために実習製品販売企画列車「大養マルシェ」、地産地消レストラン企画列車「大養ランチ」を開催した。 (3) 養老駅で「高校生朝市」を開催し、地元産小麦粉を使用した「養老パン」を販売した。 (4) ローソン、山崎製パンと連携し、地産池消パンを開発した。 (5) 岐阜大学、県産業技術センターと連携し、養老の滝から分離した酵母を使用した日本酒醸造試験を実施し、孝子伝説の再現に取り組んだ。 (6) 養老町の特産である瓢箪の栽培と加工品開発、及び駅や公民館で瓢箪イルミネーションを実施。</p> <p>3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子 食品科学科では上記のような、地域と連携した課題研究を積極的に実施しており、学科の授業で身に付けた知識や技術を地域へ発信し、還元することで社会貢献に繋がっている。 (1) 3年目の提供となり、食育推進と地産地消の学校給食メニューとして定着している。 (2) 企画列車の運行により養老鉄道の利用者増加に貢献し、地方創生の一助となった。 (3) 地域の学校を巻き込んだ「高校生朝市」を開催し、地域の活性化と地産地消に貢献した。 (4) 今年で13作目（7年目）となる地産地消パンの取り組みは、地域に定着している。 (5) 養老の滝から分離した酵母の日本酒醸造は、養老改元記念祭のプレイベントに花を添えた。 (6) 養老町特産の瓢箪の加工品開発と普及の取組を推進し、故郷「養老」をマスコミを通じて全国に認知させ、瓢箪イルミネーションをプロデュースするなど地方創生の大きな力となった。</p> <p>4 活動を通しての児童生徒の変容 地域と密接に連携した課題に取り組む中で、生徒自らが主体的に課題発見・課題解決に向き合うことの楽しさを体感し、地域住民と協力することと主体的に生きることの大切さを学び、成長した。課題をみつけて解決するという創造的な学習を展開する中で、発想力や行動力、生きる力が身に付いた。また、これらの活動を通して、地域と関わって研究活動を展開することで学習の確認ができ、成功体験とともに自己肯定感を得ることに繋がった。一方で情報発信することによりコミュニケーション力やプレゼンテーション力が高まり、郷土への愛着も増した。</p>						